

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。

No.2523

復活後第一主日
礼拝式順序

2026年4月12日

受付
司会
献金
奏楽礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前奏			
招きの言葉	[43] 詩編第118編23～24節	司会者	
讃美歌	34	一同	
	子どもたちへのお話 または 悔い改めの黙祷		
讃美歌	58(2節)	一同	
聖書	第一ペテロ 1章3節	(新約聖書428ページ)	
祈り		司会者	
讃美歌	322 (1-3節)	一同	
お話し	「生ける希望」		
		川上直哉 牧師	
讃美歌	322 (4-6節)	一同	
献金		一同	
報告		司会者	
讃美歌	91 (1節)	一同	
祝福の祈り			
後奏			

*当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
 *旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
 *献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

〇〇〇〇〇〇〇〇〇 公告 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

2026年4月19日(日)礼拝後、礼拝堂にて、教会総会を開催します。
 25年度決算・26年度予算 並びに
 2027年度にて主任担任教師が任期満了となることに伴う
 「招聘委員会」設置の件 等を、話し合います。

〇〇〇〇〇〇〇 今週の集会 〇〇〇〇〇〇〇

- ☆「御言葉と祈りの時」 4月15日(水)19:30～ オンライン併用
- ☆「大人の教会学校と聖餐式」 4月16日(木)10:00～ 一部オンライン併用
- ☆「聖書信仰」読書会 4月16日(木)18:00～ オンライン

〇〇〇〇 次週の予告 (4/19) 〇〇〇〇

☆ 復活後第二主日礼拝 (お話：川上直哉 牧師)

[聖書]	ヨハネ伝10章11-28節
[お話]	「私は良い羊飼いです」
[讃美歌]	34 58 200 91 [招きの言葉] 7
受付	
奏楽	礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で 可能な方に担当いただきます。

礼拝後、総会を開催します。会員でご欠席の方は、委任状をお出しください。

〇〇〇〇〇〇〇〇 お知らせ 〇〇〇〇〇〇〇〇

✦今後の予定は以下の通りです

- ・4月19日(日) 教会定期総会
- ・4月25日(日) 中澤先生が10時半の礼拝を担当
- ・5月3日(日) 日本基督教団柴宿教会の礼拝担当(14時半～)
- ・5月10日(日) 日本基督教団いずみ愛泉教会の礼拝担当(14時～)
- ・5月24日(日) ペンテコステ(聖霊降臨日)
- ・5月26～27日(火～水) 東北教区総会(教区センター・エマオにて)
- ・6月20日(土) 宮城北地区総会(石巻栄光教会にて・13時～)

《 先週の集会統計 》

聖日礼拝	10人	み言葉と祈りの会	4人
早朝礼拝	2人	聖餐式	4人
月定献金		特別献金	
森邦子(4月～7月) 渡邊邦子(3月) 斎藤みや子(4月)		森邦子・渡邊邦子・斎藤みやこ (以上、イースター献金)	
席上献金	¥28,100		

週報別冊

2026年4月12日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「教団ジャーナル 風」：最終号となりました。「存在をかけて聖書を読む」（加古川東教会牧師 森なおさん）、「日本基督教案出版局のこと 現場から」（日本キリスト教団出版局職員有志）等が掲載されています。
- 「お願い」（宮城学院中学高等学校）：宮城北地区の関係学校から「積極的に教会の礼拝に出席するように勧めて参ります」ということで、生徒たちの礼拝出席のためのお葉書を頂きました。
- 「学報」「後援会通信」（日本聖書神学校）：80年の歴史を持つ日本基督教団の夜間神学校からの通信です。今年は19名の新入生があったとのことでした。

【その他教会・団体関係】

- 「就退任のお知らせ」（日本YMCA同盟）：日本YMCA同盟の総主事から、田口努さんが退任され、代わって太田直宏さんが就任されることの連絡を頂きました。
- 「光の子」（社会福祉法人光の子どもの家）：睡眠の安定を目指して「ストレッチ」を工夫したことを記す「老いの真ん中に立つて」（老健施設紅寿の里 施設長 仙道富士郎さん）等が掲載されています。
- 「山梨青年」（山梨YMCA）：「山梨YMCA 初代総主事 桑島一郎さん」を紹介する「資料室だより」（資料展示室運営委員 岩間孝吉さん）等が掲載されています。
- 「共助」（基督共助会）：「『関わる事』を願い求めて」（アジア学院職員 江村裕子さん）等が掲載されています。
- 「SINAPIS」（カトリック大阪高松大司教区社会活動センター・シナピス）：今年の「3.15」（2011年3月15日は、TEPCO福島第一原発の臨界が停止した記念日です）にローマ・カトリック教会が行った浜通りのフィールドワークの報告等が掲載されています。

2. 牧師動静

4月6日（月）

日中、福島市での「ふくしま YMCA 設立準備委員会」に出席し、夜、スピノザ読書会をオンラインで主宰しました。

4月7日（火）

午前中、「初心に帰ってマルコ福音書を読む」を教会で主宰し、午後、教会で執務しました。

4月8日（水）

日中、教会で執務し、夜、祈祷会を主宰しました。

4月9日（木）

午前中、一件の訪問をして聖餐式を行い、午後、仙台拘置所で教誨活動をしました。

4月10日（金）

日中、教会で執務し、夜、世界食料デー仙台大会実行委員会をオンラインで主宰しました。

4月11日（土）

朝、福島市で「キッズケアパークふくしま」に参加し、午後、石巻市内での催事に参加しました。

- 先週、教会総会資料を添えて、献金のお礼状を、昨年度の遠方からの献金者（27件）に、送付しました。多くの方の祈りと支援を受けて昨年度を歩めたことを、神様の恵みと感謝しています。
- 4月13日（月）午後6時半から、石巻市内にて、「過去と未来のつなぎ方——フィリピンで思ったこと」と題して、川上牧師が講演をします。

4月13日（月）

日中、教会で執務し、夕方、市内で講演をしています。

4月14日（火）

日中、米山のイエス宣教団 宮城教会にて中澤先生が主宰する「実践宣証会議」に出席しています。

4月15日（水）

朝から宮城刑務所で教誨活動をし、夜、祈祷会を主宰します。

「関わること」を願い求めて

江村 悠子

「学生から学ぶ準備が本当にできているか？」先日の職員会議で投げかけられた問いだ。図星だった。私の働くアジア学院で学ぶ農村リーダーたちのことを、便宜上日本語では学生と呼ぶが、英語ではパティシパント（参加者）と呼ぶ。職員のことは決して「先生」と呼ばない。この共同体に参加する人は皆、平等に先生であり生徒である。

そう得意げに語る一方で、彼らから学ぶ機会を活かしていない自覚が私にはある。学ぶとは情報を得ることではなく、他者との関わりから生じる自分自身の変容だ。だから私にとって冒頭の問いは、「ここで出会う人々と関わっているか」とほぼ同義である。これまでの学院での出会いを顧みると、学びと喜びに満ちた関わりも多く与えられてきたが、恐れや煩わしさ、自信のなさによって避けた関わりも数えきれない。卒業式を終えて帰国する一人ひとりに別れを告げる時、別れの寂しさよりも、関われなかったことへの寂しさが勝つことがある。この寂しさは、孤独で虚しい。

自分や相手が変わえられるような人格的な関わりを、私はずっと願い求めている。関わりを避けがちな私がこのように願うのは、これまで共助会や様々な場で、心を砕いて関わりようとしてくれる友たちと与えられ、それによって変えられてきた実感があるからだ。この変容こそが、互いのいのちを大切に、共に生きる世界を築いていくのだと確信している。だから私も、関わる人でありたい。

関わりが困難なとき、讃美歌21-575「球根の中には」の英詞の一節を思い出す。「Unrevealed until its season, something God alone can see」―その季節まで隠された、神様だけに見えるもの。目の前の人の真実も、出会いの意味も、私に見えるよりずっと奥に神様は見えておられる。信頼して、諦めずに関わり続けたい。

（アジア学院職員）

4月16日（木）

午前中、一件の訪問をして聖餐式を行い、夕方、オンラインで読書会に参加し、夜、仙台青葉城ワイズメンズクラブの例会に出席し、その後、オンラインで世界食料デー仙台大会の会議を主宰しています。

4月17日（金）

休暇を頂きます。

4月19日（土）

午前中、エマオで「荊冠の神学」読書会を主宰し、午後、反貧困みやぎネットワーク「なんでも相談会」に主催者側として参加しています。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

石巻学プラスワン

2026 4/13 (月)

Vol.27

過去と未来のつながり
―マニラで思ったこと
石巻栄光教会・川上直哉氏の報告

開場 午後6時
開演 午後6時半
会場 ラ・ストラダ（石巻市立町2-5-2 2F）
入場料 1500円（ドリンク販売あり）
案内人 大島幹雄（石巻学プロジェクト代表）
出演 川上直哉（石巻栄光教会牧師・仙台白百合女子大学カトリック研究所員）

10号というひとつの節目を迎えた「石巻学」は、11号からあらたに「結ぶ」というテーマを掲げ、石巻の魅力を深掘りするだけでなく、石巻となんらかのかたちでつながっている街の話題、テーマを毎回とりあげていきます。

今回のプラスワンは、牧師という立場を越えて、福祉や復興のほか、さまざまな分野の社会活動を展開している石巻栄光教会の川上直哉さんをお迎えします。川上さんは近年、「支倉都市問題」結成に向けた活動に携わっており、これは慶長遣欧使節とゆかりの都市をつないでいこうというまさに「結ぶ」活動です。今年の2月には慶長遣欧使節の実現と連行に最も深く関与したルイス・ソテロの名誉回復のために、フィリピン、マニラを訪ねました。今までの活動を振り返るとともに、マニラで出会った出来事を織りまぜながら、過去と未来を繋ぐことの意義を伺います。ここで見たこと、感じたことを中心に、「支倉都市問題」と「みちのく潮風トレイル」について、語ります。



川上直哉氏



案内人 大島幹雄

予約・問い合わせ ラ・ストラダ
☎0225-94-9002 ✉info@la-strada.jp



石巻市を観光する方にも
ご参加ください

日本キリスト教団出版局のこと 現場から

一九六七四年四月に働きを始めた日本キリスト教団出版局（以下、出版局）が、二〇二六年三月に大きな区切りを迎えることになりました。どうしてこうなったのか、何が起ったのか、そして今後は、限られた文字数ですが、現場からの簡単な報告をここに記します。

一、出版局の業績不振

なぜ、このような事態を招いたのか。それは第一に、出版局

の業績不振によるものです。売

上高を見ると、二〇〇〇年度は

七億一〇四万円、二〇〇五年

度には四億九八八五万円、そして

二〇一五年度に三億四一四四方

円。二〇一〇年度には初めて

三億円を下回り、一億七六九万

円となりました。以降、三億円

を再び上回ることはできないま

まに推移し、二〇二四年度は

二億七三五〇万円となりました

た。

この売上減の要因は、出版不

況、日本基督教団の教勢衰退、

そして出版局で売上の柱となる

ようなヒット商品を出せなかつ

たことが挙げられます。

売上三億円が黒字化ラインと

されました。二〇二一年度以降、

出版局においては、既刊書籍の

売上改善を目指すための様々な

キャンペーンや、雑誌の価格改

定など、毎年、策を講じました。

しかしその効果は限定的でし

た。また理事会においても全教

団的な支援の要請が論じられま

したが、その実現には至りませ

んでした。

他方、教団においても、出版

局の経営改善に向けて多くの議

論が重ねられました。例えば、

二〇二一年度には常議員会が

「出版局将来検討委員会」を設

置し、一〇回以上の委員会を開

いて答申を出しています。その

中には、出版局の責任所在の不

透明さを問題視する「出版局の

組織的問題点」や「経営上の課

題」といった重要な指摘があり

ましたが、その改善には至りま

せんでした。

今、振り返ると、売上三億円

を下回って以降、私たちがなす

べきことは大きく二つありまし

た。ひとつは人件費の削減です。

売上二億七〇〇〇万円にふさわ

しい給与を検討する必要があります

ました。事業の見直し、組織の

スリム化も必要でした。

もうひとつは在庫削減です。

出版局は三か所に倉庫をもって

おり、その在庫コストが経営を

圧迫してきました。必要な在庫

数を的確に判断し、余剰在庫を

減らしていく、いそぎの努力

が必要でした。

このような痛みを伴う改革に

リターシブをもつて取り組

む経営者が、出版局には不在で

した。課長会も理事会も、その

任を負うことができませんでし

た。

二、多額の繰り出し金

もうひとつ、日本基督教団の

諸教会の皆様にご覧になっていた

は一九六九年以降、各教区から

の教団負担金未納という事態に

よって教団財政が破綻しかねな

い状況にあったときに、出版局

は教団からの要請により、多額

の繰り出し金を教団に支払って

教団財政を支えたことです。そ

の総額は、教団事務局の計算で

六億円、出版局の資料では

八億八〇〇〇万円に及んでいま

す（二〇一〇年三月、右澤禮年

出版局長の説明資料より）。

出版局の経営が厳しい時に

も、教団への繰り出しは継続さ

れました。出版局の利益が少な

い時には資金が足りなくなり、

銀行から借り入れて教団に納め

続けました。借入金の利息も出

版局が支払い、その合計は

一億一〇〇〇万円と計算されて

います。

後年、負担金未納が教団に

支払われた際にも、立替をした

出版局に返済はされませんでした

た。出版局は幾度も教団総会や

常議員会に報告や要請をしまし

たが、「教団と出版局との間に

正式な貸借契約が成立していな

かった」との理由により、繰り

出し金返済は一蹴されたので

す。このことが、出版局の資金

繰りを逼迫させました。

三、事業整理に向けて

二〇二〇年以降の出版局危機

を教団、出版局共に認識しつ

つても有効な策を打つことができぬ

ままに時が過ぎ、二〇二四年度

決算でとうとう債務超過、すな

わら経営破綻に陥りました。

二〇二五年七月の常議員会

で、網中彰子出版局長代行が「出

版局の人件費を四分の一にす

る」と発言します。九月には、

出版局理事会が出版局の事業を

整理縮小する提案を次回常議員

会に提出することを決めます。

そして一〇月の常議員会で事業

整理が決定されました。

出版局が長年行ってきた事業が来年度以降どうなるのか、詳細はまったく未定のままに、整理縮小だけが決定されたのです。現場に多くの混乱が生じました。それでも出版局の職員は、読者や著訳者、そしてキリスト教文書伝道のことを考え、限られた時間で精いっぱい働きをしたと思います。

二〇二五年十二月末には、職員に向けて希望退職者の募集が始まりました。そして二〇二六年一月下旬現在、局長代行および教団幹事による、出版局職員の個人面談が行われています。

四、これから

出版局の事業は、今後どのように継承されるのか。今決まっているのは、下記のようなことです。

・出版局は消滅するのではなく、教団事務局内に小さな組織として残る。この事務局内出版局が二〇二六年度以降も当面、既刊書籍の販売、賛美歌の著作権管理、賛美歌集の販売などを担当する。

・新刊書籍の刊行は二〇二六年三月で終了する。

・『信徒の友』『こころの友』は二〇二七年三月号まで刊行し、

事務局内出版局が販売する。編集業務は、二〇二六年度に新しく設立される会社に委託する。

最後にお伝えしたいのは、諸教会の皆様への感謝です。皆様が出版局を覚えて折り、また書籍や雑誌を購入してくださったので、出版局は五九年の歩みをなすことができました。まことにありがとうございます。

「私に与えられた神の恵みは無駄にならず、私は他の使徒たちの誰よりも多く働きました。しかし、働いたのは、私ではなく、私と共にある神の恵みなのです」(二コリント一五、一〇)。

ただ神に栄光がありますように！

二〇二六年一月

日本キリスト教団出版局

職員有志

(上原愛美、大久保悦子、大谷理、加藤愛美、川村寛子、小泉正子、佐藤恵理子、篠原治哉、田鎖夕衣子、土肥研一、友野富美子、白田浩一、秦一紀、前山新、皆川舞、宮地冬子、渡辺順子、渡邊宏紀)

以上、五〇首順)

特別寄稿

存在をかけて聖書を読む

森 なお

教団総会でのわたしを含む三名の発言が問題視され、『教団新報』に議長談話が公表されました。わたしについては、聖書や教団信仰告白を否定したというがその理由のようです。

けれども、わたしは聖書や教団信仰告白を全否定したつもりなどまったくありません。ただ、聖書の言葉の一言一句すべてをそのまま受け入れなくてはならないのだとしたら、それは無理だと言ったまでです。ものが言えない教団にはなつてほしくないと、やむにやまれぬ思いで発言しました。

かつて、逐語靈感を信じるフアンダメンタリストだったわたしは、教団認可神学校の一つで学ぶ中、もっと自由な聖書の読み方があるのだということを知り、こころの殻が打ち破られて今があります。聖書には明らかな矛盾もあり、人権・平和などの観点からとてもそのままには容認できない記述もあるという事実きちんとして向き合っているのだと。

聖書も教団信仰告白も、歴史

の中で人間が紡ぎ出してきた言葉ですから、絶対視するのは間違っています。神以外を神とするなどというのは、自分たちの信じているものさえも絶対視するなどいう、それこそ聖書自体が示している深い知恵だと思います。

わたしのことを「救われていない」とおっしゃった方がおられたと聞いています。

総会でも申しましたが、申命記二二章五節にはこうあります。「男は女の着物を着てはならない。このようなことをする者をすべて、あなたの神、主はいとわれる」。

トランス・ジェンダーとして生まれ、それを表に出すことはできずに、ただときどき母親のものをこっそりと身につけることで、自らの中の女の子に息継ぎをさせるということしかできずにいたわたしは、中学生のときに教会に通い出し、聖書を通読する中でこの言葉に出会って、大きなショックを受けました。わたしは救われないのだと思いました。でもイエスは言い

ました。「神様、罪人のわたしを憐れんでください」と祈らずにはおれなかった微税人を神様はよしとされたのだ、と。その言葉に出会ってわたしは救われました。

「救われているわたしたち、救われていないあの人たち」と人間が開いをつくるとき、救われるのはむしろその外側に迫いやられた人たちのほうである。そうイエスは言い続けられたのだと思っています。そして、ご自身も排除され尽くすかたちで十字架につけられた。わたしはそのイエスに従いたいと思っています。

そして、こんなわたしも大丈夫だと神様がおっしゃってくださる、だからあなたも大丈夫なのだというメッセージを、いつも語りたいと願ってきました。それは、わたしが聖書から受け取ったメッセージです。わたしはそれに存在をかけたいと思っています。

(もりなお)

加古川東教会牧師、

第四三回教団総会議員)

